

平成21年 5月27日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：18530378

研究課題名（和文） 女性非正規労働者と労働組合についての研究

研究課題名（英文） A Study on women workers in non-regular employment and the labor-union movement.

研究代表者

笹原 恵 (SASAHARA MEGUMI)

静岡大学・情報学部・准教授

研究者番号：40237813

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：女性労働者、非正規労働者、労働組合、パートの組織化

1. 研究計画の概要

本研究は、女性非正規労働者の組合運動への参加と、労働組合側の女性非正規労働者に関する運動方針と施策を合わせて考察することを通して、女性非正規労働者と労働組合運動との関わり方について明らかにしようとするものであり、以下の3つの柱を中心に展開している。第1の柱は「ナショナルセンターレベルでの労働組合の分析」で、連合、全労連、全労協などの、女性非正規労働者に関する運動方針とその施策を分析する。第2の柱は「個別労組の分析」であり、女性非正規労働者の運動が活発に行われ、かつその組織化に熱心に取り組んでいる個別組合のケーススタディを試みる。第3の柱として、1996年に、我が国、初のパート賃金差別訴訟に勝訴した「丸子警報器労働組合の分析」であり、訴訟の原告である女性非正規労働者の労働意識および組合活動に関する分析を行う。

2. 研究の進捗状況

先に述べた3本の柱別に進捗状況を述べる。

(1) 「ナショナルセンターレベルでの労働組合の分析」

この間、我が国の労働組合のナショナルセンターである、全労連、連合に関して、ヒアリングを行うと共に、最新資料を入手し、既存資料とあわせて、パート組織化をめぐる動きについての整理・分析を行っている。

＜全労連＞1999年に「婦人部」（現女性部）を立ち上げ、2001年には「パート・臨時労組連絡会」を設置、また2006年には、非正規

労働者の組織化の本格的な推進をめざし、「全労連非正規労働者部会」を設置し、さらに2008年8月20日に「非規雇用労働者全国センター」を発足している。

＜連合＞2001年の定期大会で「組合づくり・アクションプラン21」を決定し、パートタイム労働者の組織化やパートタイム労働者の組合作りを呼びかけ、2003年までの2年間に約8万人のパートを組織化している。また2007年10月には「非正規労働センター」を設置している。

(2) 「個別労組の分析」

個別労組の分析としては、特にJMIU（全日本金属情報機器労働組合）に焦点をあて、現在の活動方針及び活動状況についてのヒアリングを行い、非正規労働者の組織化の方針案などを含む諸資料を入手・分析を行っている。JMIUは設立当初1989年の春闘においても、パートなど不安定雇用についても正規雇用者の要求額を時給換算して盛り込み、パートの組織化を行っている。また3本目の柱との関連で、JMIUの長野地方本部を訪問し、丸子警報器訴訟前後のJMIU長野地本の動きなどについてもヒアリングを行った。

(3) 「丸子警報器労働組合の分析」

すでに入手済の大会資料のデータベース化を継続して行うと共に、分析を続けている。また現在の活動についてもヒアリングとを行い、2本目の柱である上部団体（JMIU長野地本）との連携のあり方や、他支部との連携等についての調査を進めている。さらにこれまで蓄積してきたケーススタディの入力を

行っている。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

おおむね順調であるとする理由は、先に挙げた、「ナショナルセンターレベルでの労働組合の分析」、「個別労組の分析」、「丸子警報器労働組合の分析」の3つの柱にそってそれぞれ現況を把握するとともに、データベースの蓄積や分析をおこなっているからである。

4. 今後の研究の推進方策

今年度は最終年度であるので、少なくとも3本目の柱である、丸子警報器労働組合の分析についてはまとまった成果を出したい。また第1の柱であるナショナルセンターレベルの分析については、現況を踏まえつつ、特に1990年代前半に至るまでの、非正規労働者の組織化の動きをまとめたい。

他方、現在着手できていない、2本目の柱の「個別労組」の分析における単組の分析についてはこれまで分析を進めてきた、JMIU（全労連傘下）と対照できる、連合傘下の単組（JAMを想定している）にアプローチし、比較研究をおこないたい。